令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　『早めのひ難』で命を守る　」

岐阜県　揖斐川町立谷汲小学校　６年　植山（うえやま）　いろは

今年も９月１日に、地域の防災ひ難訓練に参加した。区長さんのお話を聞いているときに、ハザードマップの看板が目にとまった。そういえば、以前家でもハザードマップを見たことを思い出した。

訓練の後、我が家では、身近な災害について家族で話し合った。私が住んでいる木曽屋地区は私の家をふくめほとんどの家が土砂災害警かい区域になっていることが話題になった。その時に母が、

「家の裏はすぐ山で、危険な場所だから気をつけないとね。」

と言ったが、私は何が危険でどう気をつけたら良いのかよくわからなかった。すると母が、この木曽屋で大雨による鉄砲水が出たことがあるという話をしてくれた。平成元年９月のことだそうだ。バケツをひっくり返したような雨が１時間降り続き、家の前の道路が鉄砲水で川のようになった。そして、となりの家の裏に土砂が流れ込んだ。とてもこわかったそうだ。もし、その時起きた土砂災害がもっと大きかったら命に危険があったかもしれない。そう考えると、私もこわくなった。そこで私は、土砂災害から命を守るにはどうしたら良いのか考えようと思い、海津市の「さぼう遊学館」に行ってみた。

土砂災害には、がけくずれ、地すべり、土石流の３種類があることが分かった。我が家は、公民館に土石流危険けい流の看板があるので、この３種類の中では土石流に注意しなければならない。土石流の流れは、時速 40～50 キロメートルという速度で一しゅんのうちに人家や畑などにおそいかかるそうだ。だから、早めのひ難が大事だと思った。

一方で、土石流が起きる前には前兆があるということも分かった。それは、テレビの音も聞こえないぐらいの激しい雨がふり続く、川の水の色が茶色くにごる、ゴーゴーと流れていた川の水が急に少なくなる、石がぶつかり合ってカチカチという音が聞こえてくるなどだ。私は、これらの自然のサインに気づいたら、ひ難情報が出ていなくても、早めに安全な場所へひ難することが大切だと思った。

土砂災害警かい区域とは、がけくずれや土石流が発生した時に、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域だ。私は、そんな危険な所に住んでいるにもかかわらず、防災への備えが不十分なことに気が付いた。

そこで、家に帰ってから、土砂災害について分かったことを家族で確認し、命を守るためにはどうしたら良いのか次のようなことをみんなで話し合い、決めた。

平常時の備えとして①ハザードマップを確認し、リビングにはる。②非常持ち出し袋の中身を点検する。

大雨がふり続きそうなときは①防災気象情報や土砂災害警かい情報に注意する。②山とは反対側の２階の部屋でねる。③土石流の前兆があったら、すぐひ難する。④ひ難するときは、近所の人にも声をかける。

「さぼう遊学館」で、土砂災害によるぎせい者の９割近くが屋内で被災していると知った。これは、ニュースで、土砂災害にあわれた人が、

「自分の家が、まさか災害に巻き込まれるなんて思ってもいませんでした。」

と言っていたように、「自分は大丈夫。」という思い込みからひ難をおくらせてしまうためだろう。「自分は大丈夫。」と思い込まずに、早めにひ難して命を守る最善の行動をしたい。

木曽屋は高れい者だけの世帯が多い集落にもかかわらず、毎年ひ難訓練をしているおかげで、みんながひ難場所やひ難の方法を知っている。災害は、忘れたころにやってくるというので、防災意識を高めるためにも毎年行われるひ難訓練は大事だと思った。地域のみんなで「早めのひ難」を合言葉にしよう。